

専門職大学と出生率

■専門職大学の創設の検討が進んでいます。

高等教育機関には、大学、短期大学、高等専門学校、専門学校があります。

専門職大学は新しい類型ですが、専門学校との大きな違いは学位賦与と国からの助成があるということです。何故、今、文部科学省が検討しているのかと言えば、教育も産業だとした場合、需給バランスが崩れているからと言えます。次のページのグラフを見ればすぐに理解されるように、高専や専門学校の入学者が横ばいで推移している一方、定員に満たない大学が増えています。特に短大の入学者数が激減しており、経営が難しくなっていると推測されます。こうした大学や短大の専門職大学への衣替えが目的だと透けて見えます。

ドイツにはデュアルシステムと言っていわゆる大学と職業訓練大学の2コースがあります。実際には難しいのですが、コース変更もできる様です。

一方で、社会からは何のために大学に行ったか分からない学士よりも、即戦力供給の強いニーズがあります。逆に専門能力と学位の両方が欲しい学生のニーズも相当にあると思われれます。加えて、これからは人口減少、特に労働年齢人口(15~65歳)の減少が深刻化します。女性の活用、定年延長に加えて、早期就労、早期戦力化が必要な時代です。

関係者の思惑は種々ありまじょうが、学生にとっても社会にとっても良い政策だと思われれますが、如何でしょう。

■特殊出生率の上昇が期待されます。

我が国の合計特殊出生率は1.4程度で推移しており、人口減少が深刻な問題となっています。なぜ、人口減少になったかと言えば、高学歴化による晩婚化と若年層が低収入で子供が産めないという社会構造にあると言えます。

専門職大学で手に職をつけて職場に入ってくることになれば、早期に即戦力化になりますので育成・訓練の費用削減となり、その分は即、賃金アップにつながると期待されます。また、受け入れ側も給与体系の抜本的見直し、職能給、成果主義への転換を余儀なくされるでしょう。

そうなれば、若年層の収入増で早婚化、出生率のアップにつながるでしょう。

猫も杓子も大学に行く時代から、子供の特性に合った職業(専門)選択の時代に変化するのではないですか。既に、一流シェフやパティシエになるために、大学に進学する費用でフランスやイタリアに修行に行く若者も結構いる様です。営業職にしても高校を卒業して営業に回り、必要を感じてから、語学、会計、法律等を必要に応じて身に着けた方が優秀な人材が育つと思うのは私だけでしょうか。

ともかく、大学に行けば生活が保障される時代ではなくなっています。

図表 高等教育機関別の入学者推移

